

値上げとなります

すでに実施させていただいているお客さまもございますが、今回、改めてすべてのお客さまに対してお願いする次第です。

5月1日以降ご注文分より値上げさせていただくことになりました。ありとあらゆるものが値上がりする中、誠に心苦しい限りではございますが、昨今の事情ご賢察の上、ご理解ご協力賜りますようお願い申し上げます。

尚、送料に変更はございません。この先、運送会社からの値上げ要請も考えられますが、今のところこれまで通りの送料です。

エネルギー価格の高騰はすべてのコストを押し上げています。需要が高まることで価格が上がるだけでなく、コストの増分を価格に転嫁させてもらっているのが実情です。世の中の値上げの多くが同じ状況だと思います。

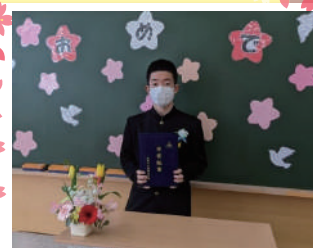
さらに深刻だと感じるのが、原材料や部品や道具などの供給です。これまで入手できてい

たものが手に入らない。あるいは納期がとてつもない。すべてのものに該当するわけではありませんが、多くのもので今までの当たり前が、もはや当たり前ではなくなりました。窯業関連の業者さんの縮小や廃業も続いています。

世界の海運状況も依然としてこちらの都合のいいようにはいきません。一年を通じての計画的な発注や不測の事態に備えるための、たくさんの在庫が不可欠になっています。

設備や資材関連も同様に自社での予備品在庫をこれまで以上十分に、中間業者さんにお任せだったものを、自分たちで手配するなど、原材料とあわせて今後も継続して生産していくために手を尽くして参ります。息子の代へとつないでいくつもりですのでまだまだ頑張ります!

淵野直幸



次男の隼大が中学校を卒業しました!

工場見学できますよ♪



職場体験に先立ち、有田焼が出来上がる一連の過程を見学する中で、有田町内の田島商店へもお越しいただきました。天草陶石の鉱

ました。工場見学は大歓迎です。淵野陶磁器原料、田島商店ともにもいつでも受け入れておりますので、ご希望の方はご連絡ください。

工場見学にお越し

いただきました!

2月14日、立命館アジア太平洋大学（APU）の学生さん3名が田島商店の方へ工場見学にきました。大分県別府市にあるAPUと佐賀県有田町は2019年より友好協定

脈や等級、スタンパー（キネトウス）で作る伝統的な製法、納品先の希望に応じた真空土練機での粘土の調整など、磁器土製造の流れについて説明させていただきました。

を結んでおり、人材育成と有田町の地域活性化を目指す事業の一環としてインターシップが実施されています。今回、インドネシアと台湾からの留学生と日本の学生の3名が参加されました。

みなさんとても興味深く聞いてくださったので、すごく話のしがいがありました。彼らのインターシップとその先の勉学に少しでも役に立てていければ幸いです。



Misaki's トーク



同じグループの2人と
うちの前で

次女の水咲です。西九州大学看護学部3年生です。4月からは4年生、大学生活最後の1年がスタートします。

本年度3年生の後期は、学校での授業はあまり行われず、病院や施設等での実習がほとんどでした。3～5名ずつのグループに分かれ、科目ごとに異なる場所で1～3週間ずつ、計8か所での実施でした。

私たちの学年はコロナ禍と重なり、1・2年生のときに十分な実習を受けることが出来ず、ほぼ初めての看護実習だったのでとても緊張しました。

8月22日、実習は佐賀県内にある大学病院の循環器科からスタート。1週間の休みのあと、次は福岡県の総合病院へ。このような感じで精神科の病院、保育園、重症心身障がい児の病院、老人ホーム、産科の病院、療養病棟のある病院と実習漬けの半年間でした。

私の住む市内にある国立医療センターで行われた産科の実習の際は、通うのが難しい同じグループの2人がうちに泊まりました。この期間中は、実習はもちろん毎日朝ご飯から夜ご飯、夜遅くまでレポートも一緒に仕上げました。そしてまた朝3人で一緒に病院に行く。毎回、実習とレポートで大変ではあるのですが、家族も友達2人を歓迎してくれてこのときは楽しい時間でした。

学生なので実習で出来ることは限られます。始めのうちは何をすればよいのかわからず、患者さんを見守ることしか出来ませんでした。指導を受けながら身体を拭く際に手の届かないところを手伝ったり、一緒に折り紙や絵を描いたり、退院後も行える運動についてのパンフレットを作ったり、実習を通して出来ることはたくさんあるということに気づきました。そして何より笑顔で「ありがとう」と言ってもらえることがとても嬉しかったです。

実習施設では、受け持った患者さん、指導して下さった看護師、助産師、理学療法士、言語聴覚士の方からたくさんのお話を学び、充実した実習を送ることができました。

春休みになった今はめちゃくちゃダラけています(笑)。4月からはまた実習が始まると思います。就職活動や卒業論文もあります。一年間勉強して最後に国家試験。それまでまだまだ頑張ります。



夜遅くまでレポート
頑張りました！

水咲

第32話 会長さんの 昔話



私が物心ついたころは、住み込みで働いてくれている方たちがいました。今となっては成り行きを知る由はありませんが、おそらく戦後に仕事を再開したあたりから、働いてくれる人を探した結果だろうと思います。当時は、もちろん自家用車など無く、土日関係

なく働くのが当たり前だったからでしょう、うち以外の同業者や大きな農家さんなどでも住み込みで働いている女性たちがいました。そんな彼女たちのことをこちらでは「ねえちゃん」と呼んでいました。「ねえちゃん」は「住み込みの女性の働き手」ということです。以降、うちでは昭和50年ごろまでの約30年間、人は入れ替わりながら3～4名の方が、住み込みで働いてくれていました。私の記憶ではその年月の中で男性は2人だけ。

彼ら以外はほとんどが中学を卒業してすぐに来てくれたねえちゃんたちでした。若い女性ばかりなので、働きはじめて数年経つと、実家の方で縁談がまとまるなど、それぞれが家庭の事情でうちを出ていきます。そうするとまた別の人を探してくる。父は伝手を頼ってその都度、働いてくれる人をどこからか見つけてきていました。昔の仕事休みはお盆に3日間、正月に3日間、ひと月遅れで節句の日4月

3日、あわせて7日間だけ。土日も普通に働いていました。普段は月曜から日曜まで粘土を作る仕事、農繁期には農作業もしてもらいます。粘土づくりは今と違って多くが人の手作業でした。朝5時半から工場での陶石の粉と砕く石を入れて替える作業、8時ごろ家に帰って朝食と洗濯、それからまた工場に戻り、午前中の作業、昼食後もまた作業、夕方帰ってきた炊事と食事が終わった夜、9時から最後の作業。私たちが家族と一緒に

にとってもよく働いてくれていました。そうやって得た給料をもらうのは、盆と正月にまとめて2回。父は食費を引いた金額を渡し、その給料を持って彼女たちは実家に帰省していました。短い休暇が終わると戻ってまた働く。働き方改革を唱える現代とは真逆のような時代でした。そういう環境の中だからこそ腕を磨き、知恵を身に付けることが出来たのだと思います。

水咲

ニュースレターの送付停止はホームページから簡単にできますのでご利用ください。



水咲 陶磁器

<https://fromform.jp/>

有限会社 水咲陶磁器原料

〒849-1426 佐賀県嬉野市塩田町大字五町田乙 287-1
TEL 0954-66-4207 / FAX 0954-66-3747 / E-mail info@fromform.jp

このニュースレターは、これまでご注文いただいた方、サンプルをお送りしました方、名刺交換をさせていただいた方など、ご縁がありましたみなさまにお送りしております。必要のない方は、たいへんお手数ですがその旨を上記までご連絡ください。

桜が咲き始めました♪みなさまの
オススメお花見スポット知りたいです、笑